

第二回のレポートです。第一回は頑張って書いたのでこれからはゆるく書いていきたいと思います。一妹尾歩



生活

5月にボールドーに渡米しました。夏までの間は、学校のサイトで知りあった工学部の学部生たち3人の家に住みました。みんな科学や勉強が大好きで、家にホワイトボードが置かれてあったくらいです。また、ハイキングやキャンプ、筋トレ、クライミングなどボールドーでの遊び方を教えてくれたのもこのルームメイトたちです。

夏からは、物理の学部を通して知り合った先輩のPh.D.生三人と住んでいます。そのうち二人は僕と同じ分野で同じ研究所なので、それぞれの研究の進捗や展望について議論するのが日課です。

最近の生活はとてもシンプルです。デフォルトは、
8:00 - 23:00 JILA (僕の研究所) です。

昼ごはんは基本ラボメイトと、晩御飯は他のラボの友達と食べることが多いです。物理や研究が本当に楽しいのでこの生活は天国だと思っています。(プリンタや文房具が全てただなのも幸せ感をアップしてくれます。) また、僕のラボや隣のノーベル賞候補の教授のラボの人々はみんな同じように高いモチベーションで研究をエンジョイしているので、いい刺激になっています。ただ、長い博士課程生活で燃え尽きることもないよう、JILAの仲間と卓球やバスケットをしたり、ボールドーに住む日本人と飲んだりスキーに行ったりすることも大事にしています。

研究

僕の研究室は[ここ](#)です。レーザーで原子を操り、新たな量子コンピューター、量子技術として名乗り上げようというのが主な主題です。僕はこの教授の二つ目のラボの二人目のPh.D.生として5月から参加しました。そして、つい先日このラボの[初論文](#)が出ました！実験と工夫を重ねることによって思ってもみない発明、発見が得られることを体感した数ヶ月でした。もちろん謝辞で船井財団に感謝しております。♪(o^▽^)/

半年を得て、メインの実験を僕だけで実行できるようになったり、エレクトロニクスや、機械工作の技術を実践的に使えるようになったり、ラボメイトと対等に議論できるようになったりと大きな収穫を得ることができました。

次の半年は、僕の一つのメインプロジェクトである高強度の紫外線レーザーを完成させ、次の論文へと実験を進めていくという流れになると思います。個人的にはラボ内で、“対等な存在”から、“かけがえのない存在”に進化できればと野望を抱いています。

授業

研究第一で、授業はそこそこに行っています。粘りに粘って、日本の学部授業がアメリカの大学院レベルであることを物理の教務の教授に納得してもらい、必修科目をほとんど取らなくても良くなったのは救いです。おかげで、今季はMIT出身の教授のめっちゃ面白い固体物理の授業を取れました。

うちのラボや、隣のラボの論文セミナーにも参加しています。セミナー発表のための準備は一番の勉強の機会だといつも感じます。

その他お役立ち情報

5月から授業が始まるまでの間は学生ビザF-1ではなくJ-1ビザで入国しました。トリックは、両方日本でもってにおいて、ビザを変える段階でどこか他の国に行ってもう一方のビザで入国するというものです。(僕は夏に1日メキシコ、タコス旅行をしました。)